

はしがき

2008年度に発足した東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生 (Gender Equality and Multicultural Conviviality in the Age of Globalization)」(平成20年度社会科学分野/拠点リーダー辻村みよ子、国内連携機関・東京大学社会科学研究所)は、グローバル化が進行する世界で生じている諸問題を、男女共同参画と多文化共生の二つの観点から解明し、それらの知見を融合しながら解決策を提示することを目的としています。さらに、こうした問題への深い理解と有効な対応策を提示しう若手研究者を育成することを最終的な目標としています(詳細は、<http://www.law.tohoku.ac.jp/gcoe>をご覧ください)。発足2年目である今年度は、クロスナショナルドクトラルコースの大学院生たちを迎えて、本GCOEの活動が全面展開した年となりました。

このGCOEの目的と目標を果たすために、学術的な研究成果を発表するジャーナルを発刊することとし、Gender Equality and Multicultural Conviviality (男女共同参画と多文化共生)の頭文字をとって、「GEMCジャーナル」と名付け、昨年度末に1号を刊行しました。今年度は、英文ジャーナルと和文ジャーナルをそれぞれ2号3号として刊行します。

GEMCジャーナルは、原則として第一部と第二部に分かれます。第一部には、GEMCジャーナル編集委員会から執筆を依頼した論文で、GCOEの研究会報告をもとにした論文や事業推進担当者らの研究論文を掲載します。第二部には、若手研究者に業績を発表する機会を保障するために、査読雑誌と位置づけて投稿論文を掲載することとしました。本GCOEのテーマと関係する論文であれば、身分資格を問わずに投稿を認め、掲載可能性のある論文の著者には研究会での報告等をお願いして成果を共有します。GEMCジャーナル編集委員会内部に設けた査読委員会が論文の査読作業にあたります。昨年度と同様、査読委員会は、広範囲の領域にわたる論文を査読するために、それぞれの論文と同じ分野の専門家に匿名で個別に評価を依頼し、その評価に基づいて厳正な査読を行いました。評価にご協力くださった内外の専門家の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

グローバル化の進展に伴い、ジェンダー、ナショナリズム、コミュニティ、世代などが生み出す差異は、構造的にもつれ合って深刻な弊害を社会にもたらします。これらの弊害を克服し、多様な文化的価値が共存する社会を再構築する道を求めて、私たちのGCOEは発足しました。その出発の年である2008年には、アメリカに発した金融危機がたちまちグローバル化して世界を覆い、世界も日本もまだその混乱の中にあります。課題は緊急でかつ困難ではありますが、本GCOEは知的な営為を重ねて、これらの課題に対応し、基礎工事となる確実な研究を目指します。GEMCジャーナルも、その営為の努力の一つとして、意義のあるものになりたいと願っております。

2010年3月

東北大学グローバルCOE

「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」

GEMCジャーナル編集委員会